

2020年度 放課後等デイサービス自己評価票アンケート結果に基づく自己評価

1. 概要

2021年2月10日から3月1日にかけて、保護者および事業所職員に対して標記のアンケートを実施しました。回収は返信用封筒を用いて無記名での回答を求めました。その結果、保護者向けアンケートでは利用者22名中20名からの回答があり、18項目中8項目で複数の保護者から「どちらともいえない」または「いいえ」との回答がありました。また事業者向けアンケートは6名の職員全員（常勤4名、非常勤2名）に実施し、集計結果に基づき検討した結果、43項目中6項目について重点的に改善が必要との結論になりました。

これらの結果を踏まえ、当事業所における課題および改善目標をとりまとめましたので、その結果を公表します。

2. 保護者アンケート

(1) 改善の必要がある項目に関する現状および改善目標

※項目末尾の括弧内の数字は、順番に「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の回答数。

① 職員の配置数や専門性の適切性 (15,4,1)

【現状】

当事業所の職員は、非常勤職員も含め全員が児童指導員の要件を満たしている。また、特に支援が必要とされる利用者が少なく報酬単価が低い区分（区分2）のため、区分1の事業所よりも職員数は少ないものの、基準人数+1名の体制は満たしている。

【改善目標】

実際に保護者の意見として職員の配置数・専門性の適切かどうかについて「どちらともいえない」「いいえ」との評価があったことは真摯に受け止める必要がある。引き続き職員の外部研修の機会を確保すると共に、職員自らの課題や問題意識に基づく内部研修も充実させ、職員の自己研鑽を図る。保護者から具体的な指摘があった事柄については、対応を協議しながら改善していく。

② 個人情報に対する十分な注意 (18,1,1)

【現状】

この項目に関しては、職員全員が「十分注意している」という評価だった。広報

での写真等の使用については、予め使用してよい条件を確認してから使用している。

【改善目標】

「どちらともいえない」「いいえ」という回答が各1名あったが、自由記載での意見がなかったため具体的な改善目標を設定することは難しい。しかしながら、この項目については昨年度も「どちらともいえない」という回答が2名あったことから、改めて保護者全員に対して個人情報の取扱いに関する意見を求め、その結果に基づいて具体的な改善策を検討していくこととする。

③ 各種マニュアルの作成と周知（16,3,0,無回答1）

【現状】

緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルについては開設時に準備した標準的なマニュアルを基本に、当事業所の現状に即した見直しを行っている。

【改善目標】

新型コロナウイルスへの対応も含め、現状に即したマニュアルを策定し、その内容を保護者に周知する。

④ 非常時の訓練（15,4,1）

【現状】

2020年度は、大地震発生を想定して事業所内での待避場所を確認し、緊急地震速報音を鳴らして待避場所に移動する訓練を行った。また、地震・大雨の際の帰宅の方法を記入する「災害時帰宅カード」を作成し、対応方法を保護者と確認した。

【改善目標】

大地震を想定した訓練はアンケート実施後に行ったため、この時点では保護者への周知は不十分だった。今後、訓練の内容や実施時の様子などを保護者に周知する。また新規利用者に対しては契約時に保護者に、利用開始時には利用児童に対して非常時の対応について説明する。

(2) 複数の保護者から「どちらともいえない」もしくは「いいえ」の回答が

あったが、改善目標を立てる必要がないと判断した項目およびその理由

① 活動スペースの十分な確保（14,4,0,無回答2）

運動をするのは難しいが、通常の屋内活動には十分なスペースは確保している。利用者が多く、個別のニーズが分散した場合（ごっこ遊びをしたい、パソコンをやりたい、静かな場所で宿題をやりたい、1人で過ごしたい等）は全員が満足できる

活動スペースを確保できないこともあるが、建物自体の広さや間取りの制約があるため、現状で改善目標を立てるべき項目とは考えていない。

② バリアフリー化の配慮 (6,12,1,無回答1)

当事業所は、エレベーターがなく2階にトイレがある戸建て物件であり、身体機能に配慮したバリアフリー化は難しい。当事業所では主に対人コミュニケーション等の社会性の向上をねらいとした支援を行っており、トイレが2階にあることによる問題は生じていないため、現状のままで差し支えないと考える。

③ 児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会 (4,10,6)

当事業所の利用者の多くは通常学級に在籍しており、支援学級在籍の利用者も交流授業で障害のない子どもと活動する機会は確保されている。これまでこうした交流を求める要望が保護者から出されたことはなく、当事業所においてはこうした機会を作る必要はないと考えている。

⑧ 子どもは通所を楽しみにしているか (17,3,0)

放課後等デイサービスは、子どもが楽しく過ごすことだけを目的とするものではない。特に思春期以降の利用者や家庭で保護者と過ごしたい気持ちの強い利用者にとっては、通所が「楽しい」と言い切れないこともあると思われる。そうした状況を保護者と共有できているケースも複数あり、回答結果から直ちに改善の必要があるとは判断できない。

3. 事業者向けアンケート

(1) 重点的に改善すべき項目に関する現状および改善目標

① 職員の資質向上のための研修

【現状】

今年度は9回の外部研修に参加し、3回の内部研修を行った。

【改善目標】

外部研修の受講機会は増えたが、その後の支援に活かされているかは明確ではない。来年度は内部研修の充実を図り、スタッフが輪番で自らの問題意識に基づいてテーマを設定したり、研修のファシリテーターを担当したりすることで、より一層の資質向上を図る。

② 標準化されたアセスメントツールの使用

【現状】

医療機関等で実施されたWISC-IVやK-ABC等の標準化された発達検査の結果は、ほとんどの保護者から提供を受けており、支援の参考にしている。当事業所での利用者の課題を評価するアセスメントツールについては、現在項目を検討中である。

【改善目標】

来年度中に、当事業所で用いるアセスメントツールを作成して使用する。

③ 保護者同士の連携支援

【現状】

今年度は11月に保護者会を行い、活発な情報交換を行った。現在、Slackを利用した保護者コミュニティの立ち上げを企画中である。

【改善目標】

Slackを使用して保護者の情報交換の場を作る。

④ ヒヤリ・ハット事例集の作成

【現状】

ヒヤリハットの可能性がある事例に立ち会った職員の報告があった場合、必要と考えられた事例について随時記録を行っている。

【改善目標】

ヒヤリハット事例と判断する基準を明確にし、適切な記録および保護者への報告を徹底する。

⑤ 各種マニュアルの整備と保護者への周知

⑥ 非常災害の発生に備えた訓練

2(1)③、④参照のこと。

(2) 現在当事業所では該当者がいないため改善の必要がないと判断した項目

① 医療的ケアが必要な子どもと主治医等との連携

② 卒業後の障害福祉サービス事業所への移行時の情報提供

以上